

消防ホースを

「アップサイクル」でバッグに

パティナー
PATINA JAPAN

小島 忠将さん



横に縫い目のない「スパイラルトートバッグ」

の「サンブル」を作ってもらった。半年近くかかりました。

アイデアが浮かぶまで

20代の頃、バックパッカーとして海外を旅していました。「○○へ行きたい!」と思いついては、特に計画もせず現地へ飛ぶような形です。事前の計画がないので、現地では困っては人に助けられ、現地の人と仲良くなり、そんな経験を楽しんでいました。

その後、建物の解体現場で働いていた時に、赤い消火栓ボックスやその中の消防ホースが廃棄されるのを見て、「もったいない」と感じていました。消防ホースは、法律により(使用されていなくても)一定期間で廃棄されることが多く、何か身近なものが作れないかと思いつき、バッグを作ることになりました。

思い付いてはみたものの

まずは材料となるホースを入手しようとして消防署に聞いてみましたが、怪しまれたのかあつさり断られてしまい、仕方なく最初はインターネットオークションで購入しました。

ところが、ミシンに触ったことがなく、バッグを作ったこともないので、自分で形にすることはできません。電話帳で縫製業者を探し、飛び込みで加工を依頼しましたが、「消防ホース」はどれも扱った

経験がなく、なかなか引き受けてもらえません。ようやく応じてくれる縫製業者さんを見つけ、作りたい形のイメージを新聞紙で作って持ち込んだりして、第一号

製品のこだわり

現在は、消防設備業者などから廃棄するものを譲ってもらっています。それを一定の長さに切つて洗浄し、縫製業者に送つて加工しています。ホースはメーカーや種類によつて素材や厚さ、編み方が違います。さらに、巻かれた状態で長期間保管されているので、ひとつひとつ状態が全く違います。そのため加工するには大変な手間がかかるのですが、それが世界にひとつしかない、製品の個性になっていきます。今では消防ホースについては、消防士さんよりも詳しくなりました。

どんどん新しいことを

うまくいかないこともたくさんありましたが、周りの人に助けられて、何とかここまで進めて来られました。

海外を旅した経験などから、命さえあればチャレンジすることができると思っていますし、成功するまでチャレンジを続けければ、過去の「失敗」は「経験」になります。成功の反対は「失敗」ではなく、「何もしないこと」です。実はやりたいこととアイデアを書き留めたノートが8冊以上あつて、「消防ホース」はその中のひとつ目です。これからもどんどん新しいことにチャレンジしていきたいです。



ホースの柄をいかした「ポディバッグ」



PATINA JAPAN
Fire hose

パティナー ジャパン
PATINA JAPAN

所 奈良市大宮町6-4-8 ☎ 0742-35-7433 FAX 0742-81-3169
shop.patina-japan.jp

古いものの形を変えて新しい価値を生み出す「アップサイクル」。ショルダーベルトには、シートベルトの端材を使用しています。